

令和5年 労働災害の発生状況

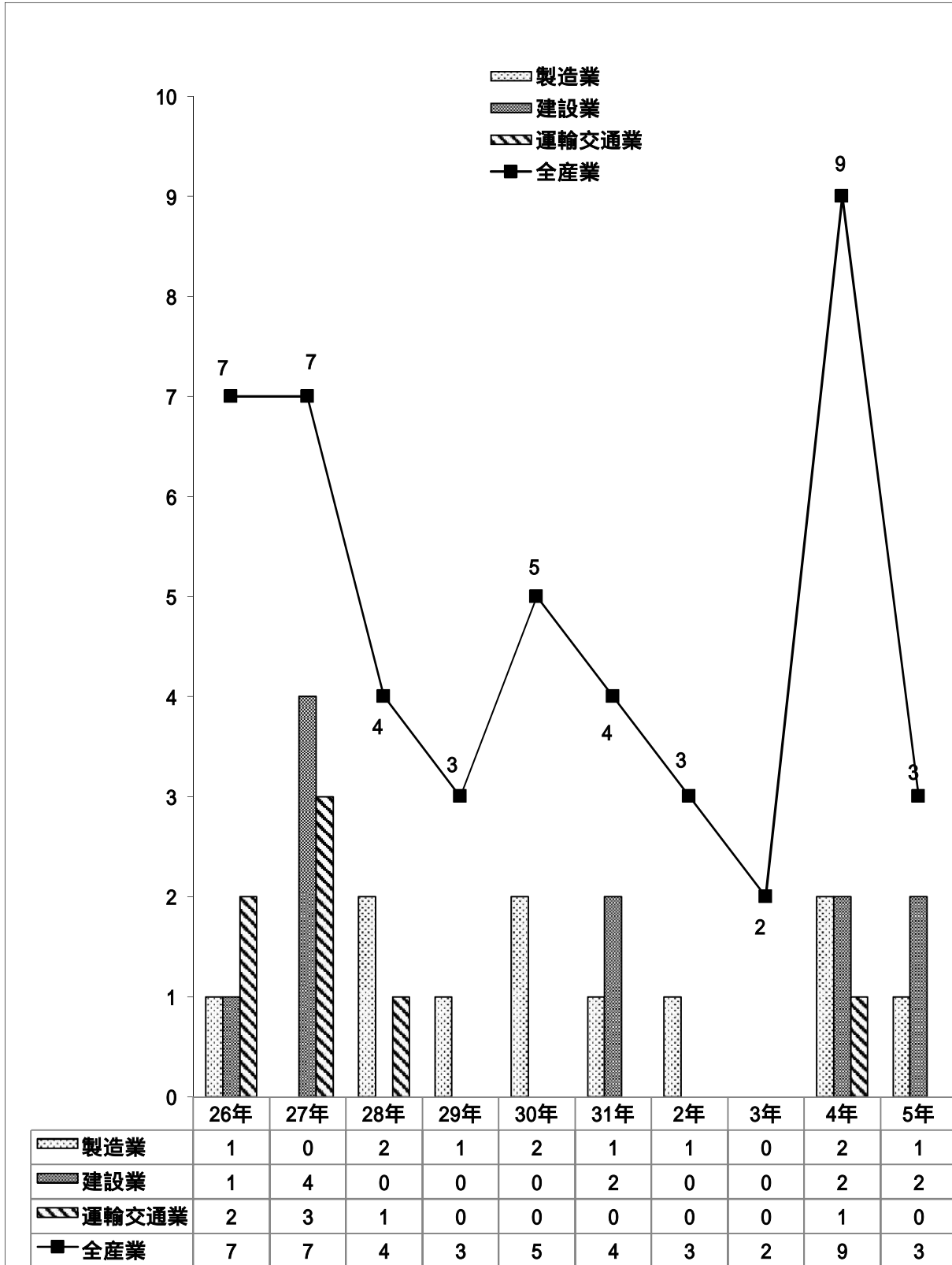
静岡労働基準監督署

1 死亡災害の現状

〔1～5まで全て新型コロナウイルス感染症に罹患した災害を除いた件数〕

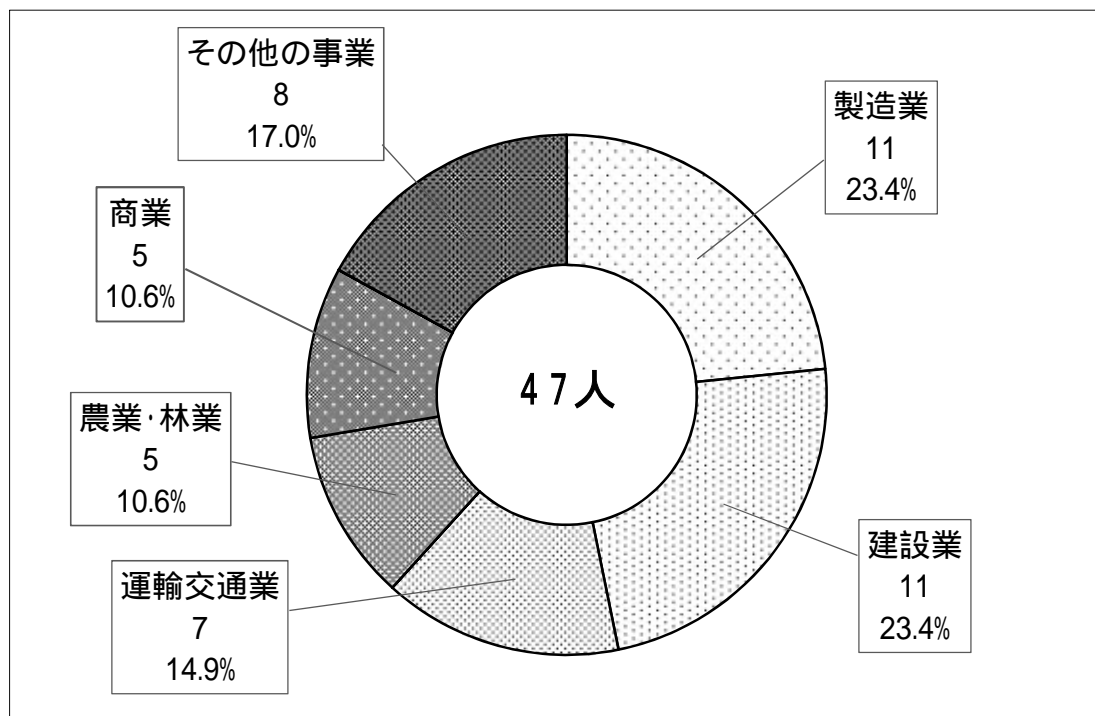
(1) 年別推移

令和5年の管内(静岡市)の労働災害による死亡者数は3人であり、前年と比べ6人減少した。



(2) 業種別の死亡災害発生状況(平成26年～令和5年)

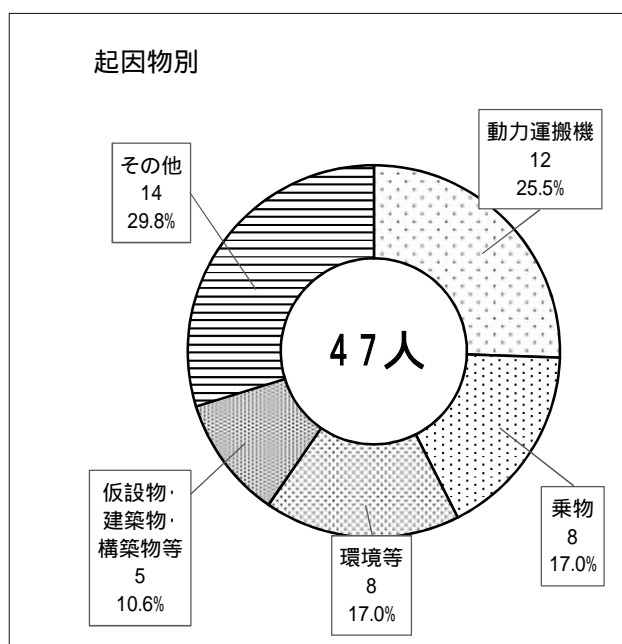
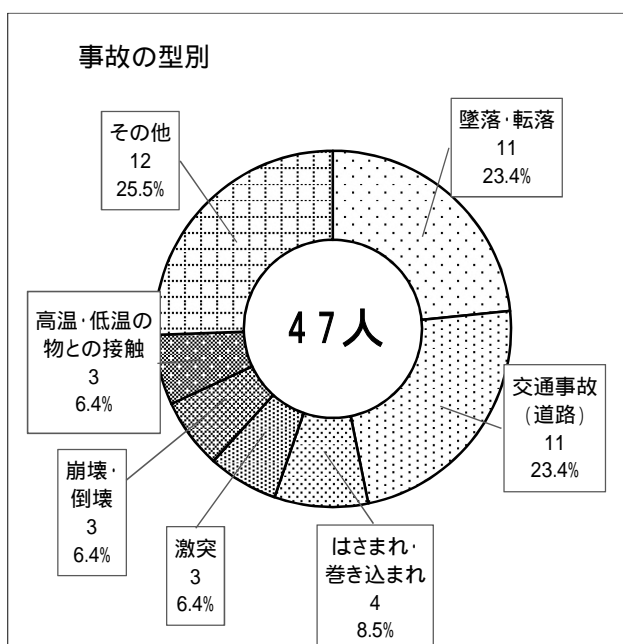
業種別では、「建設業」、「製造業」が各々が23.4%で、総件数の46.8%を占めている。
 その他の事業の内訳は、運輸交通業7件、農業・林業5件、商業5件、その他の事業8件となっている。



(3) 事故の型・起因物別の死亡災害発生状況

事故の型別では、「墜落・転落」及び「交通事故(道路)」が23.4%と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が8.5%となっている。

起因物別では、「動力運搬機」が25.5%と最も多く、次いで「乗物」が17.0%となっている。



2 死亡災害の概要(一覧)

静岡労働基準監督署

令和5年発生

番号	発生月 発生時間	業種	事業規模	事故の型 起因物	発生状況
1	7月 3時～4時	土木工事業	300人以上	墜落、転落 その他の仮設物・ 建築物・構築物等	橋梁建設工事作業中に、箱桁橋が地上に落下し、橋脚の上で作業していた者が箱桁橋の落下に巻き込まれ、約9mの高さから墜落し死亡した。
2	7月 3時～4時	土木工事業	10人未満	墜落、転落 その他の仮設物・ 建築物・構築物等	橋梁建設工事作業中に、箱桁橋が地上に落下し、橋脚の上で作業していた者が箱桁橋の落下に巻き込まれ、約9mの高さから墜落し死亡した。
3	12月 9時～10時	その他の製造業	10人未満	はさまれ、巻き込まれ 乗用車・バス・バイク	自動車整備中に自動車のフロント部分を50cm程油圧ジャッキで持ち上げ、うまを用いてフロントの両端を支えた後、油圧ジャッキを抜き、自動車の下に潜り込み、フロントタイヤ付近にあるエンジンマウントの取り外し作業を行っていたところ、自動車が後方に動いたことでうまが倒れ、車体が被災者の上に落下したものの。

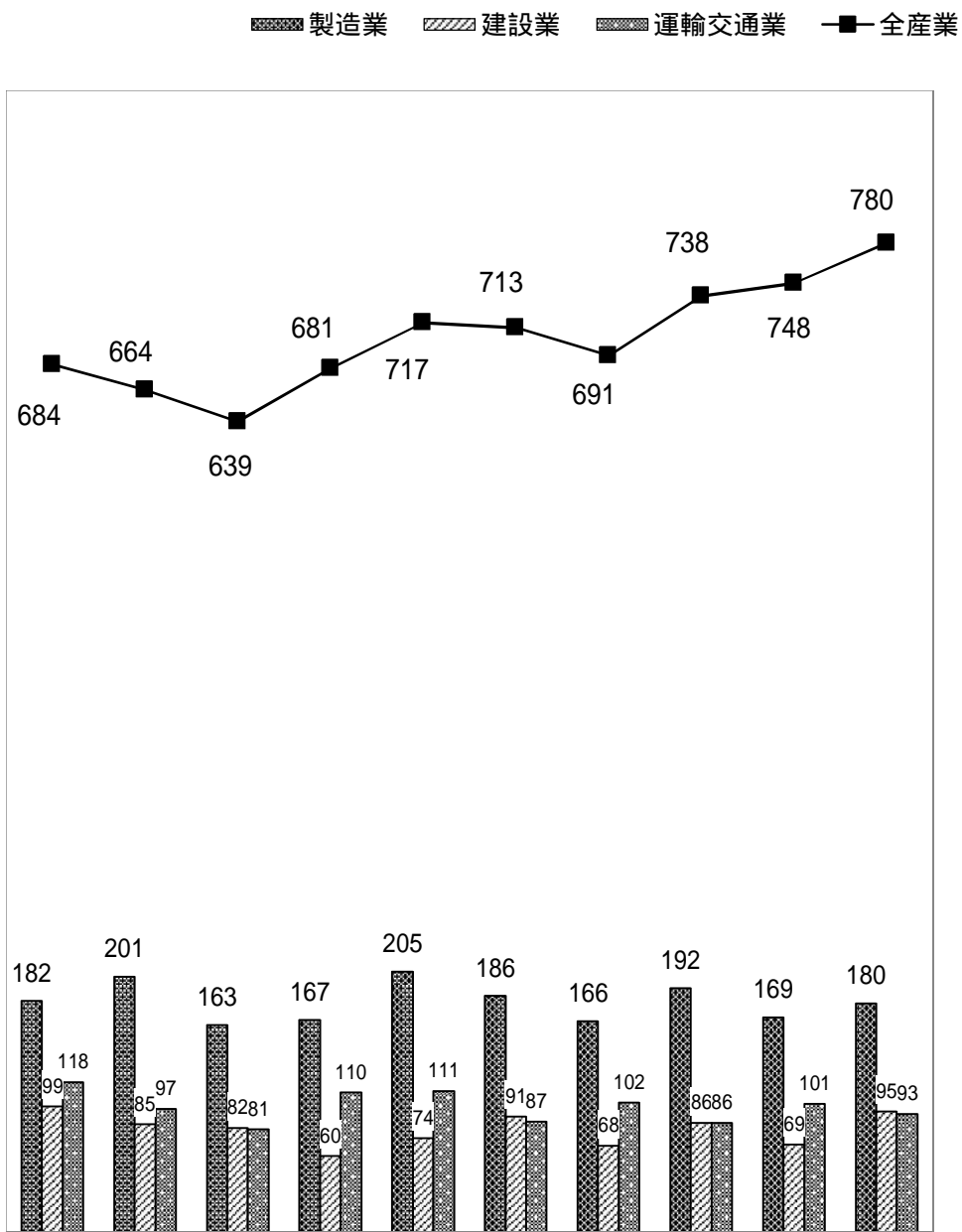
令和4年発生

番号	発生月 発生時間	業種	事業規模	事故の型 起因物	発生状況
1	5月 8時～9時	道路貨物運送業	50～99人	その他 起因物なし	荷役作業の準備中に倒れ、過重労働を起因とする虚血性心疾患により死亡した。
2	9月 9時～10時	その他の事業	10～29人	墜落、転落 作業床・歩み板	台風14号通過に伴う点検作業を駅舎外壁部に設置された点検デッキ上にて行っていた際に、デッキ床面に異常が確認されたため近づいたところ、床面が抜け約9.5m下の線路上に墜落し死亡した。
3	9月 10時～11時	その他の事業	10～29人	交通事故(道路) トラック	浜松市内の県道にて交通誘導をしていたところ、トラックにはねられて死亡した。
4	10月 10時～11時	窯業土石製品製造業	10人未満	激突され フォークリフト	後退してきたフォークリフトと停車していたトラックとの間に頭を挟まれ死亡した。
5	10月 10時～11時	土木工事業	10人未満	墜落、転落 掘削用機械	台風15号の影響に伴う農道の補修工事の際に、地面をドラグ・ショベルのバケットの背で押さえつけ締め固めていたところ、農道の一部が崩壊し、乗っていたドラグ・ショベルとともに約2.8m下の地面へ転落し死亡した。
6	2月 12時～13時	清掃・と畜業	10人未満	交通事故(道路) 乗用車・バス・バイク	青信号の国道交差点を自転車で通行中、正面から左折走行してきた自動車に激突され多発性外傷により死亡した。
7	2月 11時～12時	建築工事業	10人未満	墜落、転落 屋根・はり・もや・合掌	住宅の建方工事中、2F部分から墜落した。頸髄損傷により8日後に死亡した。
8	2月 1時～2時	非鉄金属製造業	100～299人	はさまれ、巻き込まれ その他動力運搬機	製品を昇降させるための搬送装置の調整作業中に、上から降りてきたカウンターウエイトに首をはさまれ死亡した。
9	2月 14時～15時	卸売業	10～29人	激突 トラック	ミキサー車の清掃の作業を行っていた被災者がミキサー車の後部で倒れており、骨盤骨折による内臓損傷で死亡した。被災者が作業中、何らかの理由でミキサー車のステップから飛び降り、地面に激突したものと推定される。

3 死傷災害(死亡および休業4日以上の災害)の現状

(1) 年別推移

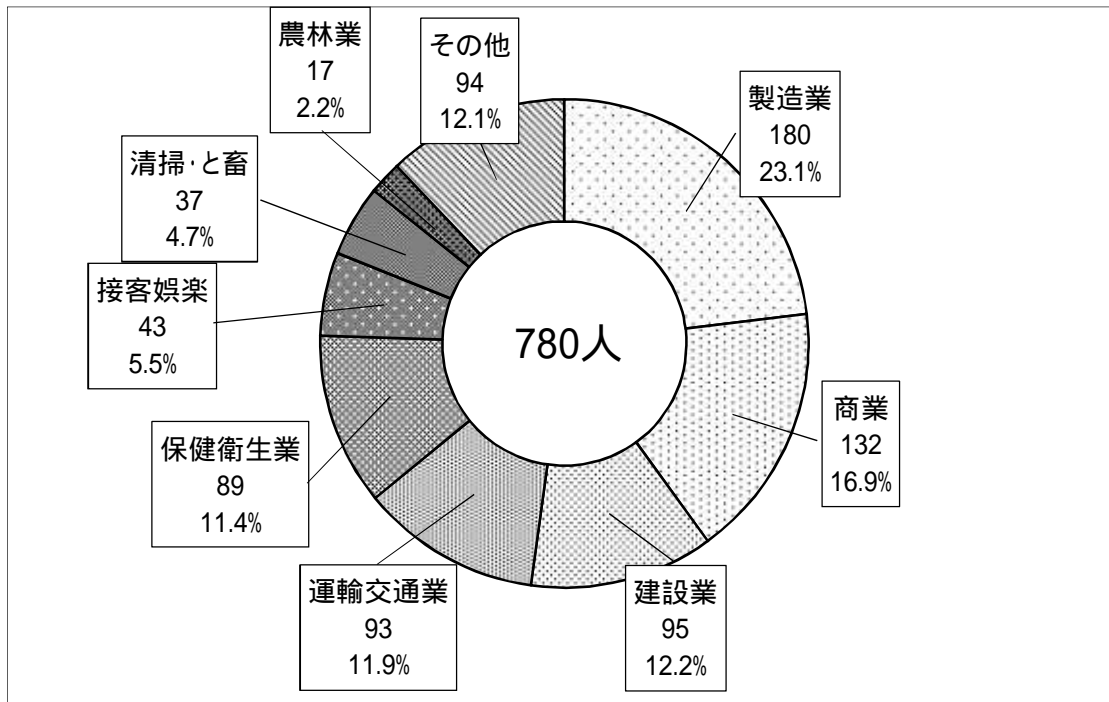
令和5年の管内(静岡市)の労働災害による死傷者数は780人であり、前年と比べ32人増加した。



	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年	3年	4年	5年
製造業	182	201	163	167	205	186	166	192	169	180
建設業	99	85	82	60	74	91	68	86	69	95
運輸交通業	118	97	81	110	111	87	102	86	101	93
全産業	684	664	639	681	717	713	691	738	748	780

(2) 業種別の死傷災害発生状況

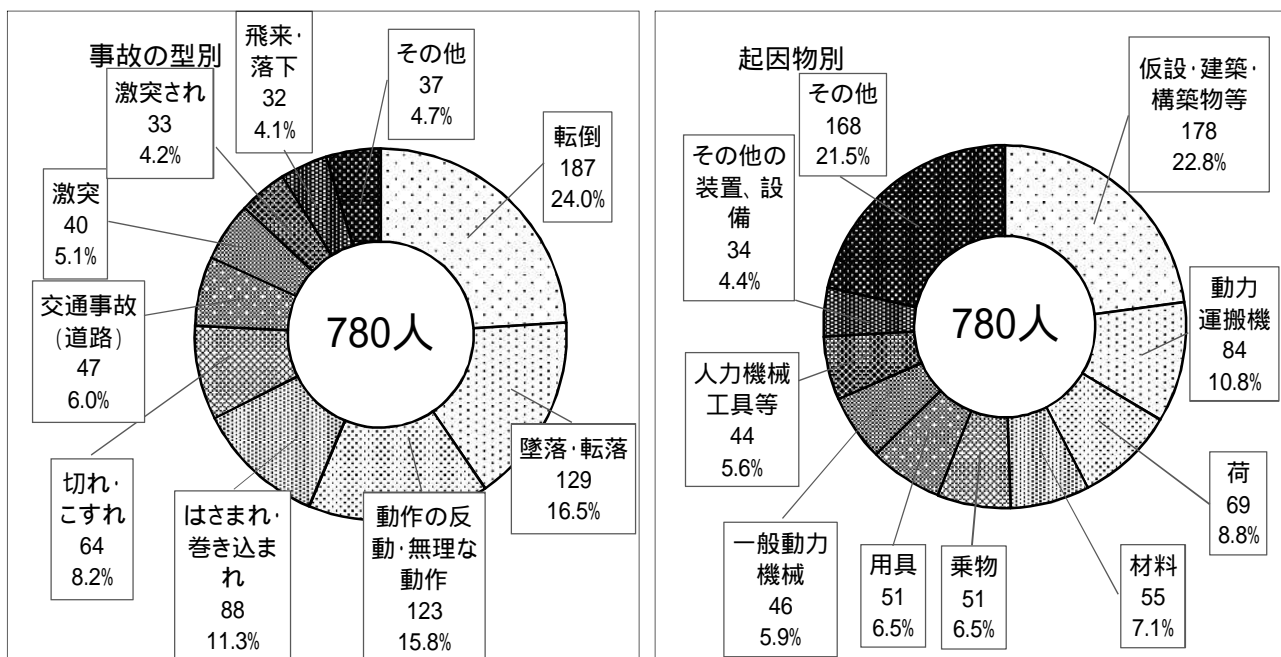
業種別では、「製造業」が23.1%、「商業」が16.9%、「建設業」が12.2%、「運輸交通業」が11.9%、「保健衛生業」が11.4%となっている。



(3) 事故の型・起因物別の死傷災害発生状況

事故の型別では、「転倒」が24.0%と最も多く、次いで「墜落・転落」が16.5%、動作の反動・無理な動作」が15.8%、「はさまれ・巻き込まれ」が11.3%となっている。

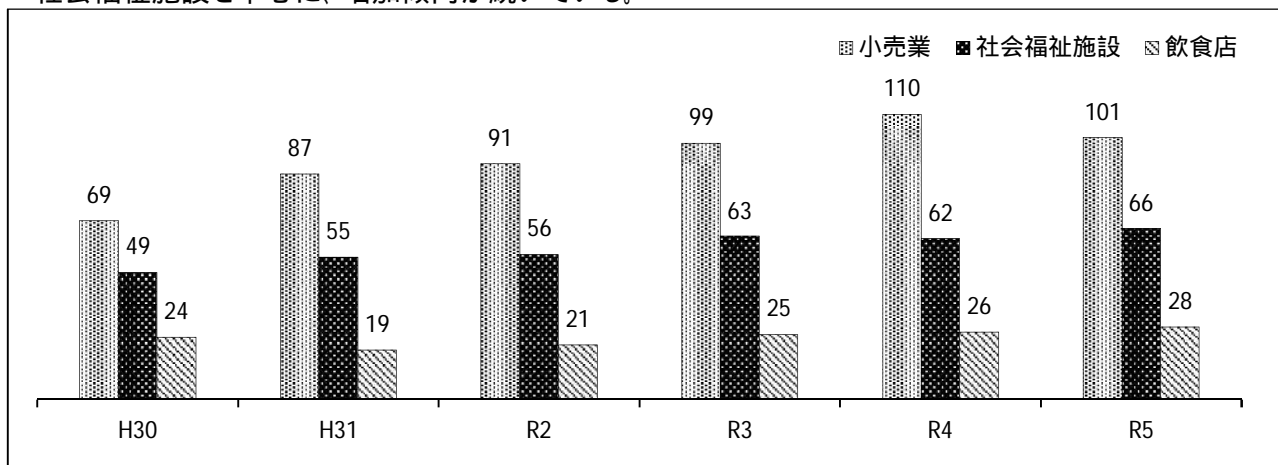
起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が22.8%と最も多く、次いで「動力運搬機」が10.8%、「荷」が8.8%、「材料」が7.1%となっている。



4 第三次産業(小売業・社会福祉施設・飲食店)の死傷災害の現状

(1) 年別推移

社会福祉施設を中心に、増加傾向が続いている。

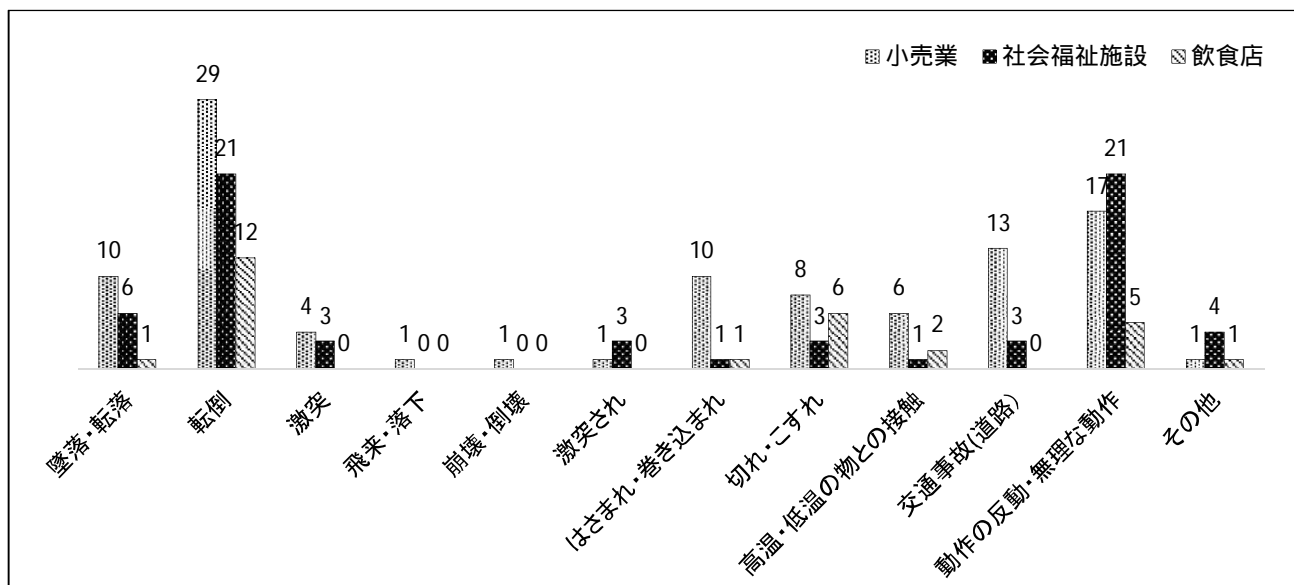


(2) 事故の型別

小売業は「転倒」が29件(28.7%)と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が17件(16.8%)となっている。

社会福祉施設は「転倒」と「動作の反動・無理な動作」がそれぞれ21件(31.8%)で最も多くなっている。

飲食店は「転倒」が12件(42.9%)と最も多く、次いで「切れ・こすれ」が6件(21.4%)となっている。



5 外国人労働者の労働災害の推移

